

作物名：ねぎ

病害虫名：リゾクトニア葉鞘腐敗病（病原：*Rhizoctonia solani*）

### 1 被害の特徴と診断のポイント

- 土に接触した葉鞘及び葉身基部のみに軟化、腐敗が見られ、地際部から倒伏・枯死するが、株全体が枯死することはない。
- 罹病葉は淡褐色を呈し、引っ張ると容易に抜ける。
- 外側から2～3枚までの葉鞘での発病が多く、その場合は出荷調整時に除去できる。
- 畝単位で発生することが多い。



写真1 地際部から倒伏・枯死した外葉

### 2 伝染源・伝染方法

- 糸状菌（*Rhizoctonia solani*）による土壌伝染性の病害であるため連作ほ場で発生しやすい。
- 罹病残渣上や土壌中で越冬した菌糸や菌核が一次伝染源となる。
- 一次伝染源から伸長した菌糸が土寄せによって葉鞘や葉身基部に接触、感染し、発病に至る。

### 3 発病しやすい条件

- 生育適温は 19～23℃とされ、日平均気温が 19℃以上で発生する。

### 4 防除方法

- 連作を避け、被害残渣は適切に処分し、長靴の底や作業機械の洗浄を丁寧に行なう。
- 本県で日平均気温が 19℃に達するのはおおよそ6月下旬頃であり、ほ場をよく観察する。
- 土寄せを深めにすると発生が助長されることから、1回の培土量は少なめにし、土寄せの回数を増やす。
- 多発する場合は、土寄せ直前に薬剤を散布する。

### 5 出典

#### (1) 参考文献

- 農業総覧原色病害虫診断防除編 第3-②巻 追録第48号（農文協）

#### (2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影



写真2 外葉基部の腐敗



写真3 *R. solani*の菌糸

（令和5年9月改訂）